



令和に求められる資質・能力を育成する授業づくりへの羅針盤 ～授業で力をつける～

さらっと いざいさ あったかい
高知家の教育

発行

R6年12月6日

西部教育事務所



講座 HP



中村中学校では、4月に行われた全国学力・学習状況調査の結果から見た課題を改善するために、第3学年【B書くこと ア】の力を育成するための単元構想を考えました。教科等横断の視点を入れ、音楽科の学びとの関連を図り、「生活や社会における音楽の意味や役割」についての批評文を書くことを通して「情報の客観性・信頼性」について学んでいくこととしました。



授業者：酒井薫教諭

7月11日（木）教材研究会
10月31日（木）授業研究会
四万十市立中村中学校

言語活動を通して、資質・能力を育成する単元づくり

1. 発揮される力は「文種」によって違います！文章の特徴によって扱う指導事項を明確にして育成しましょう！

本単元で扱いたい「批評文」であれば「対象への評価」「評価の根拠」が必要となるため、

- 「知識・技能」語彙（1）イ
- 「B 書くこと ア」…評価する対象を複数の観点で分析
- 「B 書くこと イ」…構成
- 「B 書くこと ウ」…資料を適切に引用する

などの力が発揮されます。

また、「批評する対象」は「□□は優れている（劣っている）」ということと「その評価の根拠」を述べるができるような、映画・好きな漫画など自分が好きなものが向いているのではないかと、ということでした。

中学校3年間、小学校からいうと9年間で様々な文種の書き方を学んできています。どの文種でどんな力を育成するのが必要なんですか。



ご講話：文部科学省
教科調査官
鈴木太郎先生

2. 「書くこと」の領域においては1単元に多く時間をかけるよりも、1単元の時間を抑えて育成する力を焦点化し、様々な種類の文章で資質・能力を深めていくといいです！

「書くこと」の指導時間は、年間で1・2年生 30～40時間程度、3年生 20～30時間程度となっています。1つの単元に多くの時間を費やしてしまうと、学期に1回程度、1文種しか扱えないということが起こってしまいます。例えば3年生では1単元の時間を4～5時間程度に抑えると、生徒が書く回数が増え、いろいろな文種を書く機会を与えることができます。そうすることにより様々な種類の文章を書きながら、繰り返し「書くこと」の領域の各指導事項の資質・能力を深めていけるという効果が期待されます。

学校や生徒の実態に応じて、年間計画の見直しが大切です！

3. 「知識及び技能」があつてこそ「思考力、判断力、表現力等」が発揮されます！

言語活動は「思考力、判断力、表現力等」に絡めて設定されますが、「思考力、判断力、表現力等」は「知識及び技能」があつてこそ発揮されます。だからこそ育成したい「知識及び技能」を確認し、「それがなぜ必要なのかについて気付かせる時間」と「本当に理解できているのかを確かめる時間」を単元の中に設定することが必要です。その際のポイントになるのが「教師が評価しやすい学習課題」です。そのような課題は生徒にとっても力を発揮させやすくなります。例えば「意見と根拠などの関係を捉えること」ができていのかどうかについて三角ロジックを使って可視化させると、生徒自身も内容を整理しやすく、教師も理解できているかどうかが見取りやすくなります。

理解したことを可視化させ、つまずきを把握することが大切なんですね。



授業力の向上～授業改善のPDCA～

生徒に押さえさせたいポイントと教師の手立てとは・・・？

「客観性・信頼性」を高めるとは、どういうことか

- 書き手の主観に偏っていないか、複数の情報から見比べてみる。
 - 発信元・発信時期について確かめる。
- 上記2点の視点から自分の考えの根拠になるかどうかを判断する。

自分が集めた情報だけに満足している生徒を、更に高めるための手立て

教師が作成した2つの批評文を比較させ、「客観性・信頼性が高い」ということがどうしたことなのかについて、生徒自身が気付くように工夫しました。



【思考力、判断力、表現力等】
書くこと（ア）

【知識及び技能】
（2）情報の扱いに関する事項（イ）

「モデルA」は、「モデルB」にはない〇〇が書かれているな。



さらに

その理由を問う

・複数の情報を比較することによって、なぜ「客観性・信頼性」が高まると思うの？

1つの情報の1人の意見だけでは、「その人の主観」だけで客観性が高いとは言えないからです。同じような意見の人が他にいないかを確認した上で判断しないとイケないと思います。

理解したことを言語化させる

何ができるようになったのかを生徒自身に自覚させましょう！

今回の授業では、生徒の実態から「自分の好きな音楽」についての批評文を書くことにしたのですが、収集できる情報が少なく、「客観性・信頼性」を考える上で若干難しい部分がありました。国語科は「系統的に」資質・能力を育成していく教科です。当該学年で育成したい資質・能力を育成できる題材・教材も計画的にレベルアップさせていくことで、より力を発揮させやすくなるのではないのでしょうか。

人のつながり、学びの高まりの構築



他教科・他校種、そして地域を超えて共に学び合う姿が見られていました。

参加者の声

- 文章の種類と指導事項の関係を確認できたことが大きな学びになった。
- 重点をおく指導事項を明確にすること、また評価しやすい学習課題が生徒の資質・能力を発揮しやすいというお話に納得できたので、そのことを意識して授業を考えていきたい。
- つまずきに対しての手立てや、段階に応じた手立てを、教師側がしっかり計画しておく、生徒の状況把握が、さらに重要になってくると感じました。

教材研究会

授業研究会